



第144回例会 1962.4.17 (火)

齋藤求画伯

例会場 鶴岡市一日市町 ひ さ ご や (707番)  
 事務所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (1563番)

## 次回例会

4月24日 (火)

### 卓話

#### ○出席報告

本日の出席数  $\frac{34}{47}$  名 届出 黒崎君、福島君、津田君、菅原君、佐藤(仁)君、佐藤(寅)君、大野君、海東君、佐藤(貞)君  
 出席率 72.34% 無届 板垣君、今間君、中台君、齋藤(得)君

前回の修正出席数  $\frac{41}{48}$  名 修正出席率 85.42%  
 前回出席率 83.33%  
 修正出席率 85.42%  
 メンバー クアッ プ 鷲田君 (東京R.C.)

○司会 三浦会長

○ビジター 荒井清君 } 酒田R.C.  
 佐藤久一君 }

○ゲスト カステス神父 鶴岡カトリック教会

○ソング 奉仕の理想 リーダー 広瀬君

#### ○連絡事項

- 仙台クラブより来年度地区大会(9月30日~10月2日)のパネルに小花君を委嘱して来た。
- クラブアツゼンブリーを4月14日開催し、熱心な討論あつて今後の各委員会事業実施の打合せ予算の状態を究明した。
- 社会奉仕委員会 谷口君  
 昨日鶴一中へ桜苗木50本を贈呈した。  
 近日鶴四小へも50本贈る予定であると報告あつた。

#### ○親睦委員会 張君

外科学会に出張の折、松木市長の病床を訪ねた処、大変経過良好でしたからお喜びをお伝えします。

#### ○幹事報告

○会報到着 八戸R.C.、東京R.C.、本荘R.C.

○新クラブ誕生 横須賀北R.C.

於 横須賀商工会議所 毎火曜 12.30

○例会場時間等変更

紋別R.C. 新例会場 北海道拓殖銀行紋別支店  
 寒河江R.C. 4月26日の例会時間を午後5時に  
 東京西北R.C. 6月4日より

新例会場 東京会館 毎月曜  
 村山R.C. 4月17日~4月20日 P.M.6.00

於 東根温泉 よしだ川別館

○チャーターナイト御案内

大垣R.C. 6月17日(日)

於 大垣スポーツセンター 登録10.30~12.00  
 ￥2,500

#### ○その他

ロータリーの友編集でロータリーソングのソノシート作製について賛否の問合せが来ております。

県社会福祉協議会より新聞「たすけあい」恵送あり

下記それぞれのR.C.より新役員の通知あり。  
 仙台南、気仙沼、秋田東、秋田、湯沢、古川

#### ○卓話

フランス帰郷談 カステス師父

帰郷途中見たことを卒直にお話しします。ヨルダンは

国連援助で復興し、公共的施設は全くすばらしいが、民間のものはみすばらしく、その対象的であつた。ケロンに行つて見てE E Cの活動の様子がうかがわれ、北歐にも及んでいる姿を見た。

工業施設をどしどし建設し、その効果が出ておつた。アルジェリヤ問題は新聞等で見て居つた危険性などフランスでは全くなく、国民大衆は早く結末ついて、平和になることを希望して居り、なる物がなつたと感じてあつた。大体アルジェリヤとの交渉は700年前からで、殊に130年前農耕移民として広漠な沃野を開拓してから今日の繁栄が生れた。

その時の資本家達が放棄を面白く思わず、斗争の渦を巻き起した。C A Sの様子は巴里でよく見られた。フランスには暴動に対処する特別警察があるが、各重要物には厳重警備態勢をとつて居つた。フランスでもう少し政府自体日本品輸入に心して呉れると日本品ブームが湧く可能性がある。

フランス人は昔からの伝説のもの、北斎、浮世絵、押絵、手拭等のものを悦んで、現代のモダンなデザインものは少しも喜ばなかつた。

○(前回より続く)

## 清 河 八 郎 の 生 涯

成 沢 米 三 君

江戸に出た清河八郎は学を東条一堂に、剣を千葉周作に学んだ。二十二才の10月15日の日記に「余8月より夜は丑(午前2時)非ざれば敢えて寝ねず、今日より始めて夜は子(12時)に寝て寅(午前4時)に起きんことを期す」とありその刻苦精励は尋常のものでなかつた。

文武共に自信を得たので、安政元年2月、江戸の神田三河町に一家を求めて塾を開いて子弟を養つたのである。後には文武南所という看板を掲げたというが、一人で学問と剣道を教えるという塾は江戸広しと雖も無かつたという。弟子に教える教科書は自分の著書を自分で活字を求めてこれを印刷して使つたという進歩的な面もあつた。

安政庚申春活字という芻蕘論武道篇などは現在遺品としてのこつている塾生もだんだん増して来たが、この頃

日本は幕府が朝廷の意に反して諸外国と新条約を結んだり、国民の与論に反して將軍の継嗣に家茂を決めたこと等から安政の大獄となり、その為に大老伊直弼は白昼桜田門外で水戸浪士の為に殺されるなど国内騒然たるものあつた。

日本は将来どうなるのかイギリス、アメリカ、ロシア等に占領されるのでないかというようなことで国民の不安は甚しく、孝明天皇は勅使を伊勢神宮に使わして攘夷の祈願をするなど、日本は国家存亡の危機に直面してしたのであるが、当時の幕府ではこの非常時局を取捨処理することは出来ない状態であつた。

そこで清河八郎はこの非常時局に20人や30人に経書の講義をしているのは真の学問ではないとして決然起つて国家革新の實踐運動に挺身したのである。

清河八郎の主旨は、今日の非常時局を救うの道は、天皇を中心にして国民が一致団結して国難に当るべきだという所謂尊皇攘夷の思想であつた。清河八郎は文久元年5月より約1年半幕府の探索きびしい中を水戸、仙台、京都、九州の各地を遊説して勤皇の士を募つたのである。清河八郎は気性豪毅、学問あり剣に於いても山岡鉄舟と肩をならべる抜群の技倆を持つていたので、各地に於いて肝胆相照らす同志を得た。京都の田中河内介、九州の松村大成、平野国臣、真木和泉はじめ幕臣の山岡鏡舟、高橋泥舟も同盟の士であつた。清河八郎は東北の片田舎である清川村に生れ、且つ草莽の一匹夫にして水戸、仙台、京都、薩摩、長州の志士の間にあつて、常に尊皇攘夷の主導的地位にあつたことは、清河八郎の偉大なることを如実に物語るものである。

この回天の大事業將に成らんとして、惜しいことに文久3年4月13日、江戸麻布一ノ橋々畔に於いて幕府の刺客の為に非命に斃れたのである。時は年三十四才であつた。没後28年、明治24年11月靖国神社に祀られ、明治41年9月には特旨を以て正四位を贈られ、明治45年には東京並清川に於いて五十年祭を行つたが、今年(明治90年)は没後百年忌に當つている。

○ニコニコ箱

張君 松木君の全快を祈念して

○本日の献立

刺身 平目、焼物 天口塩焼、お汁よしかに